

ワークショップ

アジアのプロ向け債券市場振興の推進母体ABMI¹/ABMF²

川島浩二（財務省）

ABMIは1997年～1998年に発生したアジア通貨危機の要因の一つと考えられる『ダブルミスマッチ（アジア諸国はUS\$等の外貨を短期で借入れ、自国通貨建てで国内の長期融資を実施し、通貨と期間のミスマッチが発生）』を解消し、アジアにおける貯蓄をアジアに対する投資へと活用し効率的で流動性が高い債券市場を育成することを目的に、日本が主導して2003年8月にASEAN+3（日本・中国・韓国）財務大臣会議で合意したイニシアティブである。

これまでの主な成果としては、債券の発行体及び種類の多様化・域内債券市場の規模拡大・リーマンショック後の景気刺激策に必要な国債の円滑な発行・アジアボンドオンライン（ABO）のウェブサイト開設等がある。昨年5月に開催されたASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁会議においては、より具体的な成果を上げる為に、ABMIの改善策として以下の9項目からなる『ニューロードマップ+（以下）』に合意している。

（1）CGIFの保証業務の開始、（2）インフラファイナンススキームの育成、（3）機関投資家向け投資環境の整備及びABMI情報の共有、（4）ABMFの活動強化、（5）域内決済機関（RSI）の設立に向けた取組の推進、（6）国債市場の更なる発展、（7）消費者や中小企業の金融アクセスの強化、（8）地域格付システムの基盤強化、（9）金融知識の向上。

また現地通貨建債券市場の規模は2002年末で約1兆US\$、2012年末には約6兆US\$と略6倍に増加しており、一定の政策効果はあると考える。

ABMFはABMIのTF3（規制枠組みの改善）の枠組みにおいて、我が国主導で、アジア域内のクロスボーダー債券取引推進に向け、市場慣行の標準化や規制調和化を議論するための共通の場として、官民双方の専門家（約150名）からなるフォーラムとして2010年9月に設置、これまで12回の会合を開催。

第一段階（2011年末迄）においては、二つのサブフォーラムで①規制の調和化・市場慣行の標準化、②債券決済の調和化・標準化を検討、成果として昨2012年4月に債券市場関連情報を幅広く詳細に網羅した初めての報告書を公表している。

第二段階（2013年末迄）においては、サブフォーラム1において東京プロボンド市場を参考に、プロ投資家を対象としたASEAN+3共通の債券発行フレームワーク（＝AMBIF：ASEAN+3 Multi-Currency Bond Issuance Framework）の導入検討、サブフォーラム2においてクロスボーダー債券取引（含むクロスボーダーコラテラル）の決済合理化・効率化を検討し、今2013年の5月3日にインドのニューデリーにおいて開催されたASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁会議にABMFとしての政策提言を提出した。

¹ Asian Bond Markets Initiative

² ASEAN+3 Bond Market Forum